

# 乳幼児の窒息・誤飲事故に注意！

- ・毎年、全国で多くの乳幼児が食物などの窒息で命を落としています。
- ・特に乳幼児に多く発生していますが、年長児でも起こり得ます。

## 食べ物による子どもの窒息事故を予防するために

- 乳幼児向けには、食品は適切な大きさにして、よく噛んで食べさせる。
  - 乳幼児の食品に表示されている月齢などは目安であり、食べる機能の発達には個人差があることも考慮して食品を選ぶ。
  - 食事の際は、誰かがそばにいて注意して見ているようにする。
  - 急いで飲み込まないように、ゆっくりとよく噛み砕いてから飲み込むよう注意をうながす。
  - 食べ物を口に入れたまましゃべったり、テレビを見ながらの食事はさせない。
  - 遊びながら、歩きながら、寝ころんだままものを食べさせない。
  - 食事中に、びっくりさせるようなことはしない。
  - 年長の子どもが、乳幼児にとって危険な食べ物を与えないように、よく注意する。
- ※ピーナッツなどの豆類は、誤って気管に入りやすいため、3歳頃までは食べさせない。

### 窒息の応急処置

のどに物が詰まって、声が出せない

119番通報

※声を出せるときはせきを出すように促します。

意識はありますか？

ない

意識がなければ

心肺蘇生へ

ある

②背部叩打法

①胸部突き上げ法



片手で体を支え、手の平で後頭部をしっかり支えます。  
心肺蘇生法の胸骨圧迫と同じやり方で圧迫しましょう。

1歳未満の乳児

異物除去法を数回ずつ

①と②を交互に行う

※反応が無くなった場合は心肺蘇生法へ



片手で体を支え、手の平であごをしっかり支えます。  
もう一方の手の平の付け根で背中をしっかり叩きましょう。

異物が取れるか、救急隊と交替するまで続ける  
また、呼吸が止まった場合は胸骨圧迫を実施する！

【参考】日本小児呼吸器学会 『小児の気道異物事故予防ならびに対応』

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部